

臨床検体使用に関するお知らせ

研究課題： 潰瘍性大腸炎関連腫瘍の発癌メカニズムとエストロゲンの関係について

【研究の背景および目的】

潰瘍性大腸炎(UC)は原因不明の大腸の炎症性疾患で、近年我が国で急増しています。内科治療の進歩によりコントロールはしやすくなりましたが、完治は難しく、長引くと癌になるリスクが高まります。UCに合併した大腸腫瘍(以下、UC関連腫瘍)は、普通の大腸癌と性質が異なり、予防や早期発見・治療が特に重要です。

女性ホルモンの代表であるエストロゲンは、一般的には大腸癌を抑える方向に働くと考えられていますが、UC関連腫瘍でどうかはわかっていません。エストロゲンがUC関連腫瘍にどう働くかを明らかにし、予防や治療に役立てられないかを調べます。

【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医学部倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象は、2004年以降、東邦大学医療センター大森および佐倉病院において、UC関連腫瘍と診断され、手術が施行された約60症例、および、東邦大学医療センター大森病院において大腸癌・大腸腺腫と診断され、手術が施行された症例のうち、各々約60症例です。術前に「病理診断のための組織の教育・研究目的に使用することに関する同意書」にサインを頂いた症例を対象とします。

病理検査後に残った試料を用いて免疫組織学という方法でUC関連腫瘍とエストロゲンの関係性を調べ、普通の大腸癌・大腸腺腫と比較します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理学的情報を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

研究資金：文部科学省科学研究費補助金を使用して行います。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院・病理診断科
職位・氏名 教授・本間尚子
電話 03-3762-4151 PHS 77292